



みなみいず 町議会だより

No. **52**号

2013年
平成25. 2. 1

発行／南伊豆町議会 編集／議会広報編集委員会 〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1 TEL0558(62)6240
E-mail: gikaij@town.minamiizu.shizuoka.jp



平成25年南伊豆町消防団出初式一斉放水

(於 ふるさと公園)

12月定例会を12月5日から12月7日まで3日間の会期で開催しました。

- 主な内容 ● 議長新年の挨拶……………2
- 平成24年12月定例会……………3～4
- 一般質問……………5～11
- 議会一口メモ、くろ潮……………12

平成24年度

一般会計・特別会計 (国民健康保険・介護保険) 水道事業会計補正予算可決

総額8,891万7千円!

(水道事業会計を除く)

- 一般会計..... 5,445万2千円
(衆議院議員選挙事務・児童福祉費・農業振興費・観光費・特別会計繰出金など)
- 特別会計..... 3,446万5千円
 - 国民健康保険...78万円 ● 介護保険...3,368万5千円
- 水道事業会計..... ● 収益的収入... 5万8千円
● 収益的支出... 4万8千円

① 人事案件

▼ 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて

○ 南伊豆町手石 673 番地 日野下 富子氏
全員賛成で可決

▼ 南伊豆町固定資産評価審査委員会委員の選任について
○ 南伊豆町手石 265 番地の 2 横山 誠氏
全員賛成で可決

▼ 南伊豆町監査委員の選任について
○ 南伊豆町一条 70 番地 高橋 正明氏
全員賛成で可決

② 条例制定・改正

▼ 南伊豆町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼ 南伊豆町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決



新年のご挨拶

南伊豆町議会議長 梅本和熙

平成25年度已年―輝かしい新春明けましておめでとうございます。

昨年はロンドンオリンピックで38個ものメダルを獲得するなど明るい話題もありました。

しかしながら東日本大震災及び原子力災害の爪痕はいまだに多く残っており、多くの方々が住み慣れた地域・住居を離れ、避難生活を余儀なくされたままとなっております。

国においては、昨年行われた衆議院総選挙により、新たな安部政権が誕生いたしました。その行く手には、日本経済の立て直しや社会保障制度改革、道州制の議論や国の出先機関改革など数多くの難題がたちふさがっています。

我が町に目を向けると昨年は水道料金の値上げを決定いたしました。が、明るい話題として新庁舎、さらには認定こども園が完成しました。

石廊崎訴訟問題も今年は解決する方向です。

議会としては議会報告会の開催や諸団体・各界各層・各世代の人と議論する場としての一般会議を開催し、町民の皆様との対話を通じて、開かれた信頼される議会を目指します。

町民の皆様の意見・ご協力を賜りますように御願い申し上げます。

むすびにあたり、町民の皆様の益々のご多幸とご健康を祈念し、新春の挨拶と致します。

▼南伊豆町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼南伊豆町普通河川条例の一部を改正する条例制定について
賛成9反対1で可決

▼南伊豆町都市公園条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼南伊豆町営温泉銀の湯会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼南伊豆町下水道条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼災害対策基本法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定について
全員賛成で可決

▼南伊豆町選挙公報の発行に関する条例制定について
全員賛成で可決

③ 第一常任委員会審議

▼南伊豆町選挙公報の発行に関する条例制定について
全員賛成で可決

④ 第二常任委員会審議

▼南伊豆町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

▼南伊豆町普通河川条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決

⑤ その他

▼南伊豆町道路線の廃止及び変更について

廃止する路線 町営グラウンド線
変更する路線 藪 下 線

● 一般質問

町長に聞きました



議員 加 畑 毅

クリーンエネルギー確保の推進

質問 10月29日の新エネルギー利活用検討委員会を私も傍聴したが、第5次南伊豆総合計画にもある「協力機関と連携をとりながら本町の有する資源を最大限に活用していくことが重要。」という記載から考えるに、本町の有する資源を活用する方法を考えるべきだと思う。当委員会に関して町長と担当課長から「年度末で締めくくる。」という意味の発言があったが、結果も出ないままで解散という判断は正しいのか。

町長 この事業は来年3月で終了し、この結果を待たないと後のことについて発言する段階ではなく、打ち切りという意味ではない。

質問 今、この委員会を消滅させてしまうリスクは大きい。この委員会は当町の各団体の代表者で構成されており、温泉組合の理事長も委員として出席している。余剰温泉を活用した熱利用

の温泉ハウスの農業利用等、議論が不十分な印象を受ける。この委員会は残すべきだと思うが如何か。

町長 来年3月の経過報告までに開催される委員会の結果で判断したい。

質問 10月29日の当委員会の中で南野山地区の深部に熱資源が存在する可能性が高いという話が出た。熱エネルギーの調査・開発というところまで考えて、この委員会を展開していく考えがあるか、それとも資料として残しておくだけか。

企画調整課長 地熱発電となると温泉への影響や自然公園法規制、それから地熱発電に適する熱源が確実に存在するか不明。よって、非常に困難であると考えている。

質問 それは本末転倒ではないか。調査しなければ解明できないから進めるわけでは、そのための委員会ではないのか。先にやらない理由を並べて、やらない方向に持って行くという意図



を感じる。温泉利用の可能性を調べる段階で既にやりたくないような発言は、本場に町の将来の産業発展を考えているのか疑問。国を挙げて新エネルギー確保に進んでいる今が、チャンスだと考えないのか。地熱が眠る南伊豆町がなぜ前に進まないのか。可能性を残しながらも国の法律だからできない、国立公園だからできない、失敗が怖いからできないと言っていたら、この町が再生していく道はないのではないか。ほんとうに次の世代にこの町を残そうと考えているのか。我々世代は、我々の次の世代のことまで考えてこの町を運営していかねばならないと考える。意見を聞きたい。

自治体との連携による地域活性化

※質問し、回答があった。

町内人口増加のための体制整備

※質問し、回答があった。





吉川 映治 議員

石廊崎再生について

質問 近頃、和解交渉に進展が見られないが。

町長 係争中ですので具体的な答弁は差し控えますが、今現在も慎重を期して交渉は行っています。

質問 第五次南伊豆町総合計画にある三つの基本理念と石廊崎再生との関係は。

町長 石廊崎の中心は今係争中の場所であり、三つの基本理念現実に向けて一日も早い決着のため努力しています。又、係争中でも石廊崎を観光地として、情報を発信しています。その他

の土地でもジオパークビジターセンターの開設等、出来る所から再開発、整備を行っています。

認定こども園が抱える課題について

質問 幼保一体の認定こども園は、南伊豆町のまちづくりにとどの様な貢献をしているのか。

教育長 一貫している保育と幼児教育を受けられる環境作り及び在宅保育児とその保護者への子育て支援の



充実を図っています。今後も次世代を担う子供達のための保育、幼児教育の充実に努めて参ります。

質問 土曜日終日の保育の可能性は。

教育委員会事務局長 利用者の要望と利用実態の解明が必要であります。よりよい保育を実現していくために費用対効果なども視野に入れながら、総合的な検討をして参ります。

質問 本来保育士は臨時ではなく、正規採用をすべきであるが。

教育委員会事務局長 保育士の採用については中長期

的な視野のもと検討するとともに、臨時職員の処遇について合わせて検討して参ります。

質問 南崎保育所の保育士及び遊具等の補充・整備の予定は。

教育委員会事務局長 保育士につきましては子供の年齢によって配置基準が違いますが、遊具等の整備は状況に応じて導入を検討して参ります。

南伊豆町内の事業経営者の救済策について

質問 業種を問わず、南伊豆町全般の景気の冷え込みについての受けとめ方及び対処の方法は。

町長 個人的には、回復基調とは言えないものの、落ち込みはとどまってきている感じはします。

産業観光課長 観光協会や観光施設では、入り込み客

は増加していると認識しています。

質問 現行の三利子補給補助金の利用状況は。

産業観光課長 小口資金利子補給は64件131万円、短期経営改善資金利子補給は1件1万円、中小企業災害対策資金利子補給は19件174万円の利子補給となっています。

質問 金融円滑化法が終了した後の町当局の対処は。

産業観光課長 今現在実施しております利子補給制度を来年度も延長して参ります。また商工会と連携を取りながら検討して参ります。

質問 金融機関とのパートナーシップ協定締結の考えは。

町長 町内の経済活性化に繋がると考えておりますので諸金融機関とのパートナーシップ協定の締結は、前向きに検討して参ります。



横嶋 隆二 議員

野生獣被害の現況と対策

質問 野猿・猪・鹿の被害対策捕獲実態、生息実態の検討は。野生獣被害対策は重大な経済問題。科学的な対応が必要。東大樹芸研究所の調査では2010年から鹿が爆発的に増えている。この間長野県南牧村伊那市



を視察した、南牧村はワイヤーメッシュを縦にして村中を囲っていた。伊那市では深刻な農家の被害に心を痛めプロの猟師になった方から、23年度鹿800頭を駆除捕獲した話を聞いた。それでも被害は減っていない状況。野生獣被害対策は、対症療法的な取組みで来たが、根本要因と根本的対策が必要。エネルギー革命以降、山が放置されていることも深刻な問題。

町長 野猿駆除捕獲は10月下旬まで1カ月半で5頭。11月から野猿捕獲駆除報奨金を3万円に引上げ、箱罠

購入補正予算を計上。県に、広域的捕獲駆除や生息調査を含む有効な被害防止対策実施要望書を提出した。温暖化で冬季の餌の確保が容易になった、中山間地域の耕作放棄地里山の荒廃が考えられる。放置山林は、同じ認識だ。

産業観光課長 24年度イノシン478頭、農協113頭、従来の報奨金・補助金の利用拡大。テレメトリーの検討。鳥獣被害対策実施隊創設。猿捕獲箱罠を予算計上で対応する。東大樹芸研究所の協力も得てセンサーを使った調査等も検討する。

新エネルギー資機材導入補助制度の整備

質問 放置山林対策にも繋がる、薪やペレットなど木質バイオマスを燃料としたストーブやボイラーなどの購入に木質バイオマス利用促進事業補助制度の創設を

企画調整課長 提案の広葉

樹の活用は荒廃森林対策・野生獣被害対策から有効な手法の1つ。先進事例を調査研究する。

新年度予算編成の基本姿勢

質問 日本経済の落ち込みの中、地域経済対策の位置づけ具体策。フェスタ南伊豆の教訓。フェスタ南伊豆に焦点を当て商品開発コンテスト等を設け一大イベントに発展をさせるべき。今後団塊の世代の後期高齢化人口増加では、在宅介護の充実・医療との連携が重要になってくる、下田メディカルセンターも含めた対応策は。

町長 商工会と連携したインターネットショッピングモールへ支援に25事業者が出店。町内農家と酒販店による愛国米原料の日本酒ブランド化計画の支援。小規模修繕制度の活用、住宅リフォーム助成を通じた町内業者の工事受注機会拡大で地域経済の活性化を進める。



シニアヘルスアップ教室・元氣アップ高齢者健脚教室・肺炎球菌ワクチン接種費助成などの健康づくり。介護予防の効率的実施。地域包括支援センターを中心に、ひまわりの会やひだまりの会を通じた社会参加促進。下田メディカルセンターへの高齢者通院バス料金助成制度の付き添い方対象拡充。下田メディカルセンター等の医療機関、介護事業所、社会福祉協議会、民生委員、企業、自治会等との連携や協働を一層進める。

産業観光課長 今後各種イベントで商品開発コンテストも取り組めればと思う。



谷 正 議員

大規模災害 (地震、津波等) について

神子元島への津波監視カメラのその後

質問 9月議会で質問した神子元島への津波監視カメラのその後の対応は。

防災室長 神子元島の所管の下田海上保安部においては安定的な電力確保、種々厳しい問題もあるとのことであるが、静岡県の第四次被害想定を視野に入れて研究したい。

津波レーダーの 南伊豆町への 設置について

質問 東日本大震災時に巡

視船まつしまが津波レーダーで捉え、民間の気象サーブিস会社社が太平洋沿岸9カ所に設置した。南海トラフ巨大地震が予想される和歌山県美浜町、白浜町に国交省、関西大学の高橋教授のグループが200kmまで観測可能なレーダーを設置した。半島先端の石廊崎に設置すれば本町の防災、減災になる。国、首都圏と連携・協力すれば実現も容易となるが。

町長 半島先端の石廊崎はこのようなレーダーの設置にはうってつけと思う。地

の利を生かした施設が設置できれば前向きに取り組み。

津波タワーについて

質問 現在、弓ヶ浜に津波避難タワーの建設を進めているが、南伊豆町は海岸線が57kmにも及んでいる。他地区への建設計画は。

防災室長 弓ヶ浜の物は高さ12m、収容人員1000人を計画している。他地区については、種々の問題で現地点では計画はない。

自然(再生可能) エネルギーに ついて

静岡県内で 行われている 波力発電の実証 実験について

質問 御前崎港、相良港で東海大学の田中教授と民間企業がNEDOの助成によ

り、実証実験を行っているが、どのような認識を持っているか。

企画調整課長 57kmに及ぶ海岸線を有する当町としては興味ある事例ではあるので、推移を見守り、成果を期待する。

各種の 実証実験への町内 誘致について

質問 国も自然エネルギーにシフトしている。様々な制約があるが実証実験の誘致に手を挙げれば南伊豆町の宣伝になり、各種事業の可能性を民間企業が興味を示し、目を向けると思うが。

町長 新エネルギー等については、まだまだ勉強不足のところがあるので検討したい。



庁内に 設置された太陽光 発電について

※質問し答弁があった。

自然エネルギー 誘致のインフラ 整備について

質問 南伊豆町は過疎地であり、送電線の容量も不足していると聞いている。

メガソーラー等の誘致に当たり、電力消費地から電力生産地への転換を図るため行動を起こす考えは。農振地域である湊・手石の耕地整理は、荒れ放題であるがその土地利用は。

町長 農地法は中々難しい面がある。あの荒廃地を何とかしなければならぬが課題として取り組む。

企画調整課長 鉄塔を建設し、送電網を整備すると大きな金額が必要と聞いている。

石廊崎訴訟問題の 進捗状況と今後の方針は



稲 葉 勝 男 議員

質問 岩崎産業(株)が起訴して5年9ヶ月が経過している。この間の一般質問に対し、「係争中」を理由に納得のいく答弁は為されず、町民への情報も開示されない状況である。しかし、裁判も和解案が提示され大詰め

の段階に入ったと報告を受けた。石廊崎は日本の石廊崎だと申しているが、問題の早期解決のためアクションを起す考えはあるか。

町長 長時間を要しているのは重要な問題であると認識し、弁護士への協力や早期解決を図るため「係争中」を申し上げてきました。裁

判も大詰めに入り慎重に取り組んでいます。まだ岩崎産業(株)所有地であり何も行動は起しておりません。

質問 大詰め段階であり早期解決のため、岩崎産業(株)社長とトップ同士が胸襟を開き会談する意志はあるのか。

町長 裁判が大詰めに来ており弁護士に任せ、そのような行動を起す考えはありません。

質問 現状から考え結審までの時間はどのくらいか。



町長 裁判であり確定はできませんが、大詰めに入っております。

平成25年度 予算編成における 防災・減災対策は

質問 海岸集落は津波の危機に立たされており、特に定住及び交流人口の面から大きな人的被害が予想される湊地区の避難タワー建設計画と、孤立予想集落への対応等防災・減災対策に対する新年度予算案は。

町長 湊地区避難タワーは新年度建設を予定しており、他の海岸集落は自主防災会と連携を図り、安心安全なまちづくりを目指します。

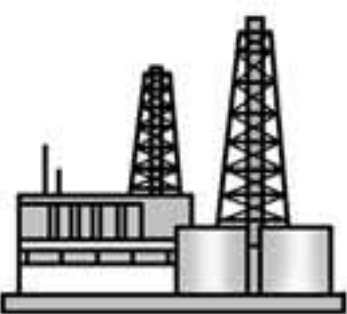


防災室長 湊地区の避難タワーは交流人口1,000人、地域住民100人を対象とし地盤高5メートルに高さ12メートルのタワーを建設し安全確保に努めるものです。

総務課長 17孤立予想集落へ衛星携帯電話を配備し、ヘリポート設置については県の危機管理局と連携を図り調査中であります。全町民三分の非常食9万食を整備する計画です。

町の活性化と 新エネルギーの 導入への考え

質問 平成23・24年度環境省による温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究



町長 脱原発には賛成であり、代替エネルギーとしてメガソーラー、風力発電、地熱発電の必要性は認識しております。3月の最終報告と財政事情等を検討しながら進めていきます。

が、町と町温泉組合の協力で実施され、最終結果は報告されていないが地熱発電等有効活用が可能であると聞く、国も脱原発の流れであり町議会も浜岡原発の永久停止と廃炉を求めた意見書も提出した。町長も脱原発の方向を示しており、調査結果踏まえ風力発電、メガソーラー発電、地熱発電を誘致し再生エネルギーの町として活性化を図る考えは。



清水 清一 議員

定住促進

質問 定住促進に、住宅リフォーム制度の効果は。

い。

町長 住民の住居空間の環境改善を図り、低迷する地域経済の活性化を図る目的で、本年度、11月末で利用件数18件、事業費約2、400万円、利活用を推進するため制度の周知に努めた。

建設課長 リフォームの活用、一層PR推進する。

質問 吉祥町有地のクリーンエネルギーで、民間企業の考えは。

企画調整課長 メガソーラーの件は、11月末までに14社の照会、具体的な提案



はほとんどない、実施の意向で2社ほど残ってきた、現在照会の段階である。

質問 地熱発電施設で、下賀茂温泉の熱量が発電するためのカロリーがあるのか。

農林水産漁業の発展政策

質問 第一次産業の経営者生産者が減っている。

町長 農業は、高齢化や後継者不足、鳥獣被害など年々衰退の傾向にあったが農業振興会の地道な活動や農林水産物直売所湯の花などにより、生産販売及び消費の地産地消が確立をされつつある。林業は2事業体が起業し、環境保全及び若者の雇用確保にも取り組んでいる。水産漁業は、アワビ、伊勢エビ、マダイの稚貝、稚魚などの放流事業への支

援を継続、安定した水揚げ、漁業所得の向上を図り、付加価値の高い漁業施設づくりなどに努め、観光の漁業の促進を図りたい。

関係団体などと連携を図り、後継者対策、人材確保を支援し、財政的支援も検討し、振興を図りたい。

質問 遊休農地、耕作放棄農地を減らしていくのが必須条件ではないか。

産業観光課長 鳥獣被害対策の面からも重要な施策、耕作放棄地の解消を図るため、自走式の草刈り機の貸し出しを行っている。

質問 耕作放棄する原因として猪、猿等の被害についてどうするのか。

町長 11月から野生猿の捕獲駆除の報奨金を2万円から3万円に引き上げた。11月19日に県に対し広域的な捕獲駆除の推進や生態調査などの有害鳥獣等の対策について要望。鳥獣被害対策実施隊の設置、町鳥獣被害防止計画に基づく鳥獣の捕獲

鳥獣被害



000人だ。3・11の津波で船・家等があらゆる物に衝突していたがタワーの強度は。完成予定は。

防災室長 国のガイドラインに沿ったものができると考えています。避難タワーは海水浴シーズンまでに完成させたいと思います。

質問 新弓ヶ浜大橋から学校まで、湊・手石方面から毎日、100人近い児童生徒が青野川近くの歩道を通学している。津波は最初に川を逆上すること知られているが町として通学路山側の高台を避難場所として整備できないか。

町長 PTAの代表・地区長・関係者と協議しながら対応したいと思います。



質問 猪・猿は薩摩芋を初めミカン、スイカ、トウモロコシ、栗等、鹿は柑橘類、杉、檜等の木の皮を剥ぎ木を枯死させている。農業・林業を営んでいる町民が丹精込めて作った作物等に甚大な被害を与えている。

11月15日には、「野生猿による農作物被害防止するための要望書」が議長宛てに提出されている。

農業・森林・豊かな海を守る為に広域によるハンターでの猪・鹿・猿等の個体数の削減が急務と考えるが。

町長 広域的な鳥獣被害防止対策については各関係機関と連携を図りながら対応に努めたいと考えます。

産業振興の取り組み

質問 ジオパークはどのように支援していくのか。

産業観光課長 ジオパークビクターセンターを中心に経済、文化活動を高め、地域振興につなげていく、誘客に結びつく施設の整備、産業振興につなげたい。

質問 ガイド本を町で作成し町民配布し、ジオパークや町内資源を町民が説明できたら良いと考えるが。

産業観光課長 今後そのように検討してまいりたい。



町長選挙

質問 生体内において細胞の適切な入れかわりが全ての組織を若々しくする。政治・経済・教育等、前進続けるために改革を繰り返さなければならぬ。また生物学者チャールズ・ダーウィンは著書「種の起源」の中の自然選択説では生存競争には最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るものでもない。変わり得る変化ができるものが生き残る。自治体も同様だ。立候補者は、気力・知力・体力・実行力・公平性等が求められるが。

町長 色々な人の考え方思いがあります。それを尊重し、私は、私の道を歩んでいきたいと思っています。

地熱開発 理解促進事業

※質問し、回答があった。



質問 10月3日、港湾空港技術研究所の専門知識を有する方々が町のシンボル弓ヶ浜海岸で砂浜減少について現地視察調査したが、その調査報告と調査結果を踏まえ今後の町の対応は。

町長 海岸侵食を確認する方法として、汀線・深浅測

弓ヶ浜現地調査について



宮田 和彦 議員

量が必要です。また、砂による養浜が有効な対策であること等の見解です。この調査結果を踏まえ海岸を管理する下田土木事務所では平成25年度養浜等の測量調査費を所管課へ要望しました。町では、地元住民や漁業協同組合等の合意形成のもと県と協議し対策が円滑に進められるように努めます。

防災

質問 避難タワーの高さは海拔17m・収容人員数は1

南伊豆町選挙公報の 発行に関する条例

12月定例会制定

公職選挙法第172条の2の規定に基づき、南伊豆町長及び南伊豆町議会議員の選挙における選挙公報の発行に関し必要な事項を定めたものです。

選挙公報には、候補者の経歴、政見、写真等が掲載され、当該選挙の選挙人名簿に登録された者の属する各世帯に対し選挙の期日前2日までに配布されます。

これにより候補者を幅広く知ることができます。

議会一〇メモ

予算の意義と考え方

町の予算(歳入歳出)は、町が年度に実施したい事業・事業にどれほどの経費をかけるか、一方それを賄うために必要な財源をどのように調達するかを計画して、これを金額で表示したものである。つまり、予算は、その町の一年間の収入と支出の見積もりであると同時に、住民に対しては、この年度に、どれほどの公租公課を義務付けることになる

か、また、その見返りとして、どんな行政サービスを行って福祉向上に努めることにするかを約束するものであるといえる。

このように予算は、直接住民の生活を左右しその福祉のいかんを決するものであるから、編成に当たる町村長も、それを審議する議会も、あくまでも、住民全体の福祉を念頭に考えるべきで、いやくも一部の住民の利益のために奉仕するようなことがあってはならない。

(宮)

議会を聴きにきませんか

議会は町の予算や身近な問題などを話し合う大切な会議です。あなたも議会を傍聴してみませんか？

1年に4回の
定例会が開か
れます。

- 3月定例会(新年度の町予算の審議が主です)
- 6月定例会(町政の進捗状況などです)
- 9月定例会(前年度の町会計の決算審議が主です)
- 12月定例会(町事業の進捗状況の確認などです)

手続きは当日、住所、氏名等の記載で傍聴できます。午前9時30分から開会します。

●お問い合わせは議会事務局へ TEL05558-62-6240



〈おことわり〉

議会だよりにおける一般質問の記事は、質問者本人による原稿提出を原則としております。

今回、渡邊議員からの原稿が期日までに提出されなかったために、質問の項目のみを掲載することといたしました。

- 1・自然エネルギーについて
- 2・新年度の予算編成について
- 3・町長の進退について

議会だより編集委員長 稲葉勝男



昨年は変革の年であった。中国では主席が変わり、韓国では大統領、日本では総理も変わった年であった。

長が変わって、政治を安定させて景気を良くし安心して暮らせることが一番大事なことと皆知っている。

景気が上むくことが平成25年の課題とされている。

今年は蛇年である。蛇は知恵の象徴とのこと。蛇は脱皮を繰り返し成長(生長)するのである。

南伊豆も脱皮をし、皆で知恵を出し合い成長しながら前に進む南伊豆町でありたいものである。

(長)